

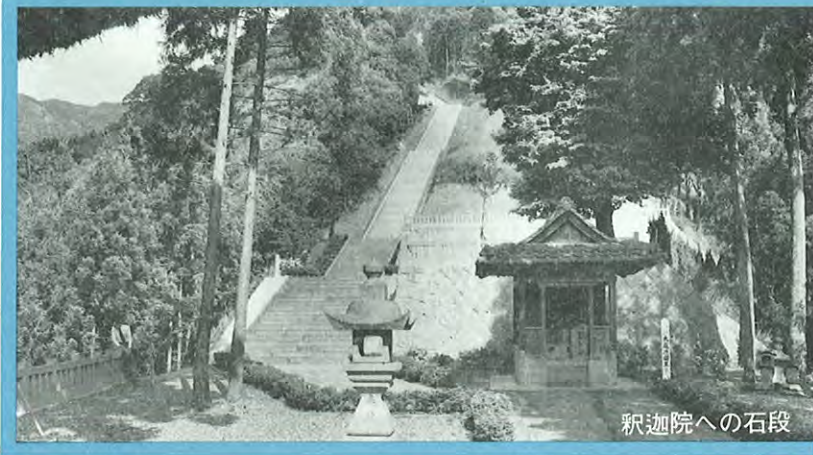
わが町
わが村

下益城郡中央町

老人を敬い、親孝行する青年の町

観光及び レクリエーション

本町南端の標高九〇〇メートル、本町と八代郡泉村との境界、近くの泉村地内に、西の高野山と称される金海山大恩寺釈迦院という格式高い寺院があります。この釈迦院は、桓武天皇の勅願で創建され、辨善大師により開基されたもので、



釈迦院への石段

一時は日本全国はもとより遠くは中国からも修業僧が集まっていたと伝えられています。

この釈迦院を開基の際、辨善大師が登られたとも修業僧の参道であつたともいわれる御坂の登山口が本町の坂本というところにあります。この御坂の再興を図るとともに中央町の観光地を開発するため、名実ともに日本一の石段を建



坂本大明神から釈迦院まで3,000段という日本一の石段で結ぶ建設工事がすすめられている。



町指定文化財大威徳明王

設することに取り組んでいます。昭和五十四年度に着工以来、すでに八百段の石段ができ最終的には、総段数三千段、延長二千九百メートルの石段になります。

この参道沿いには牛ノ護神社及び参門などがあり休憩所や駐車場等を整備して、公園をつくりました。この牛ノ護神社は、その名のとおり牛の神様として崇拝され、この地域の人は、牛の子が生まれた時は必ずお礼参りをしています。また、御坂を登るときには必ずこの牛ノ護神社に参ってから登るという風習もあります。熊本県は赤牛の生産が日本一でもあり、この牛ノ護神社に実物大の牛の石像を設置し、熊本はもとより、日本



特産物の茶摘み風景

各地の牛の生産者及び畜産業者がこの神社に参拝できるように整備されつつあります。石段建設とともに付近の山村資源を活用した、ふれあいの広場、紅葉が台、小鳥が丘広場等の休憩所及び展望台を整備し、日本一の

石段と、歴史的な文化遺産を活用した一大観光地となるよう事業を進めています。また、この釈迦院遊歩道開設にともない国道二一八号線沿いの菅野金比羅さんの公園整備、佐保五橋周辺の環境整備、襲川周辺の整備を行うほか、三千段



豚や乳牛等は目覚ましい勢いで年々増産されている

中央町の産業の振興

の石段をメインとし、周辺には民間企業による宿泊、教養センター等を配備し、併せて、本町を南北に流れる釈迦院川の清流を利用した、ヤマメ、マス等の淡水魚の養殖業の整備育成に努めています。比類なき大自然の原生林のたぐいまれをみせる御坂一帯は、県立自然公園の指定を受け、西に有明海、東に阿蘇、肥後五十四万石を眼下に見下ろすことができる風光明媚な所です。

本町の基幹的産業は農業ですが、農業をとりまく最近の状況は厳しいものがあり、米をはじめとして、牛乳、みかん等過剰さみで今後は作目の需給状況を良く見極めながら作目の選択的拡大を図る必要があるようです。

そのためには、小規模土地改良を中心とした基盤整備を進めると共に、地域の特性に合った農作物の生産拡大を推進していかなければなりません。

このことよって、メロン・トマト・畜産物特に、豚や乳牛等は目覚ましい勢いで年々増産されています。

昭和五十年年度メロンの作付面積は十三ヘクタール、五十一年度二十二ヘクタール、五十二年度三十五ヘクタール、五十七年度四十五ヘクタールと拡張され今や農業収入の中核となっています。その他、基盤整備が進むにつれて農業生産の合理化、近代化等と併せてこれまで、農村地域工業導入促進法により誘致した企業も十三社が就業し、住民の農工併進に貢献しています。